

二〇〇八年を迎えるにあたって



津市消防長 野田 重門

輝かしい二〇〇八年を迎えるにあたり、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。平素は、本市消防行政全般にわたり格段のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年三月には、能登半島地震で震度六強(M六・九)を観測し、家屋の倒壊など甚大な被害をもたらしました。その後、四月十五日には、当市を震源とする震度五強(M五・四)の地震(三重県中部を震源とする地震)が発生し、市内においても、二名の方が負傷し、家屋の屋根や壁、窓ガラスの破損、また水道管の破裂などの被害を受け、市民の生活にも影響を与えましたが、当消防本部管内では、震災直後の心配された火災などの発生はありませんでした。近年各地で様々な災害が発生していますが、決して対岸の火事ではないと実感したところがあります。新年を迎えるにあたり、「自らの身は自らを守る」という災害への備えの大切さを改めて痛感いたしました。

火災においては本年、管内で五名の尊い命が失われ、当消防本部としても「住宅用火災警報器」の設置推進など広く市民に呼び掛けてまいりました。また、救急・救助につきましても、全国的に年々増加傾向にある救急出場件数に対し、軽症者が約60パーセントを占めている現状から、救急車の適切な利用方法や全国的な医師不足などによる救急医療などの諸問題の解決に向けて、全力で取り組んでまいりましたが、なお、課題は山積されています。



自治体消防が発足して六十年を迎え、複雑化した社会構造により発生する災害も多様化しています。

当消防本部としましては、二十九万余の市民が「安全で安心して暮らせるまちづくり」をめざし、組織を挙げて全力で取り組んでまいりますので、皆様におかれましては、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びにあたり、来る年が皆様にとりまして、平穏で充実した一年でありますよう、ご祈念申し上げます。



一身田寺内町 《ほっとする町》

消防署だより

名所 歴史紹介

北署の巻

一身田寺内町は、高田本山専修寺を中心に発展した三重県下で唯一の寺内町です。

「寺内町」とは、町の名称ではなく、町の形態を表し、戦国時代以降、真宗寺院を中心に濠や堀で防ぎよした自治都市のことです。

全国各地には数多くありますが、環濠がほぼ完全に残っているのは、大変珍しく貴重な財産です。今も町内に入るためには、朱に塗られた橋を渡らなくてはなりません。一步、足を踏み入れるとタイムスリップしたような不思議な感覚になります。

一身田寺内町ができたのは、十六世紀半ばとされ、町内の入口には、黒門、赤門、「桜門」と呼ばれる三箇所門があり、朝夕における開閉によって、不審者の立ち入りを禁じていたのが治安が安定していった。また、商売の資金を専修寺

から借用することができたため、非常に商工業が繁盛しました。最近では、新しい建物が増加し、当時の面影を残す場所が少なくなりましたが、それでも環濠の付近は蔵や石垣があり、古い寺内町のたたずまいを残しています。

この寺内町では、年間を通して様々な行事が行われますが、その中でも十一月の寺内町まつりや一月のお七夜まつりには、多くの観光客が訪れ大変賑わいます。また、町内には歴史や文化などを紹介してくれる「一身田寺内町の館」があり、館内には寺内町を復元した模型が展示され、また、ビデオやパネル、各種リーフレットも備えられ、散策のポイントがひと目でわかるようになっていきますので、あ



タイムスリップしたような情緒ある寺内町

なたも一度、歴史散歩をし、散策してください。